

大豆管理情報 (第3号)

令和5年8月1日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月下旬の平均気温は、19.3℃と(対平年差+0.3℃)と平年並であった。

6月の平均気温は、22.7℃(同+1.3℃)と平年に比べかなり高かった。

7月の平均気温は、27.7℃(同+2.2℃)と平年に比べかなり高かった。

(2) 降水量

5月下旬の降水量は、83.5mm(対平年比231%)と平年に比べかなり多かった。

6月の降水量は、213.0mm(同123%)と平年に比べ多かった。

7月の降水量は、362.5mm(同148%)と平年に比べ多かった。

梅雨明けは7月21日で、7月下旬の降水量は0mmとかなり少なかった。

(3) 日射量

5月下旬の平均日射量は、17.8 MJ/m²/日(対平年比93%)と平年に比べ少なかった。

6月の平均日射量は、17.9MJ/m²/日(同103%)と平年並であった。

7月の平均日射量は、20.2MJ/m²/日(同122%)と平年に比べかなり多かった。

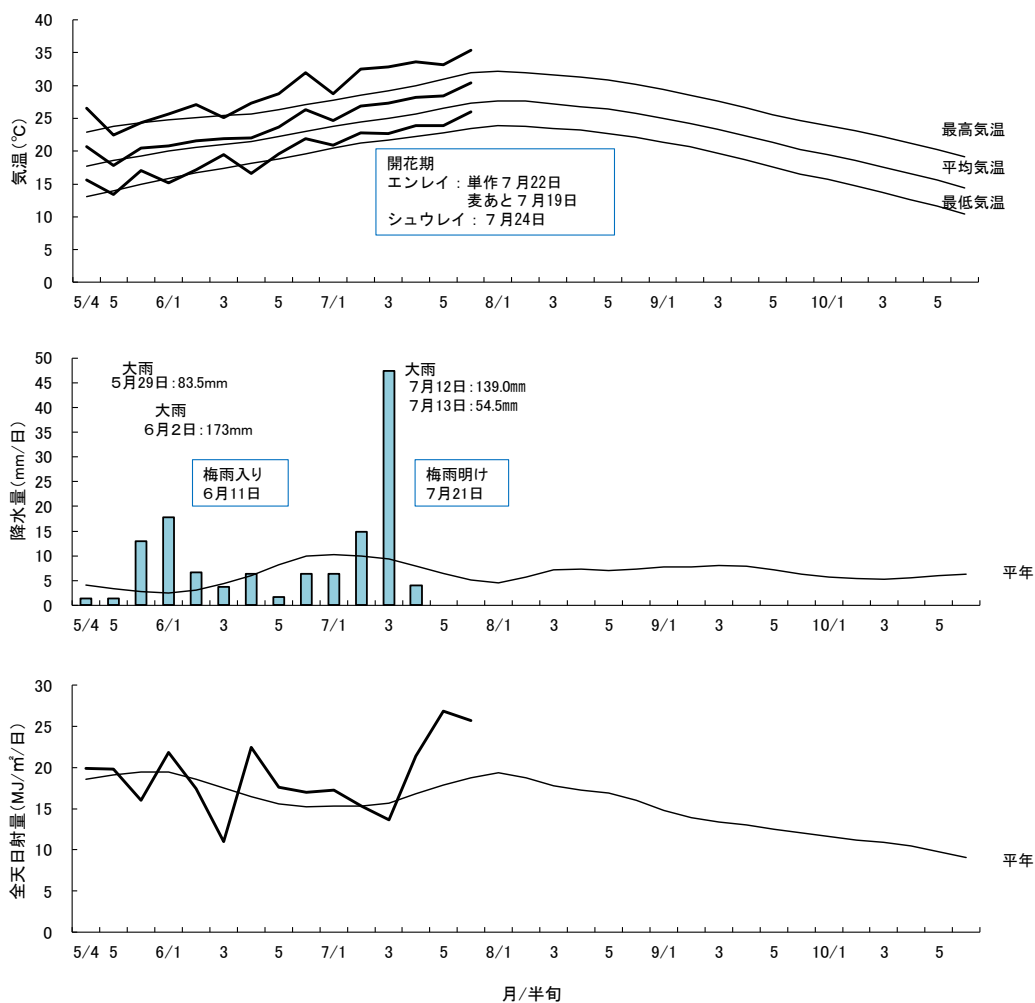


図1 令和5年の気象経過 (富山地方気象台)

2 生育経過（生育観測ほデータ）

（1）エンレイ（単作）

単作は、主茎長 71.1cm、本葉葉数 12.3 葉、一次分枝数は 1.4 本であった。
 平年に比べ、主茎長、本葉葉数は並、一次分枝数は 0.6 本少なくなっている。
 開花期は平年より 5 日遅い 7 月 22 日となった。

（2）エンレイ（麦あと）

麦あとは、主茎長 65.0cm、本葉葉数 12.2 葉、一次分枝数は 1.9 本であった。
 平年に比べ主茎長、本葉葉数は並、一次分枝数はやや少なくなっている。
 開花期は平年より 3 日早い 7 月 19 日となった。

（3）シュウレイ

主茎長 54.6cm、本葉葉数 11.3 葉、一次分枝数は 3.1 本であった。
 開花期は、7 月 24 日となった。

表 1 大豆生育観測ほ調査結果（8 月 1 日調査）

品種	年次	播種日 (月日)	栽植本数 (本/m ²)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	開花期 (月日)	
エンレイ	単作	R5	6月7日	17.4	71.1	12.3	1.4	7月22日
		R4	6月2日	16.3	86.9	13.5	1.9	7月19日
		平年	5月30日	16.4	73.6	12.6	2.0	7月17日
	平年比・差	8	106	97	-0.3	-0.6	5	
	麦あと	R5	6月5日	16.5	65.0	12.2	1.9	7月19日
R4		6月9日	17.7	82.4	12.2	1.5	7月23日	
平年		6月6日	16.7	66.6	11.7	2.1	7月22日	
平年比・差		-2	99	98	0.5	-0.2	-3	
シュウレイ	R5	6月11日	13.0	54.6	11.3	3.1	7月24日	
	R4	6月3日	15.5	72.8	12.3	2.7	7月21日	
	平年	6月5日	15.3	63.6	11.5	2.7	7月22日	
	平年比・差	6	85	86	-0.2	0.4	2	

注) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注) 平年値はH25~R4

注) 平年比(差): 栽植本数、主茎長は平年比、播種日、本葉葉数、一次分枝数、開花期は平年差

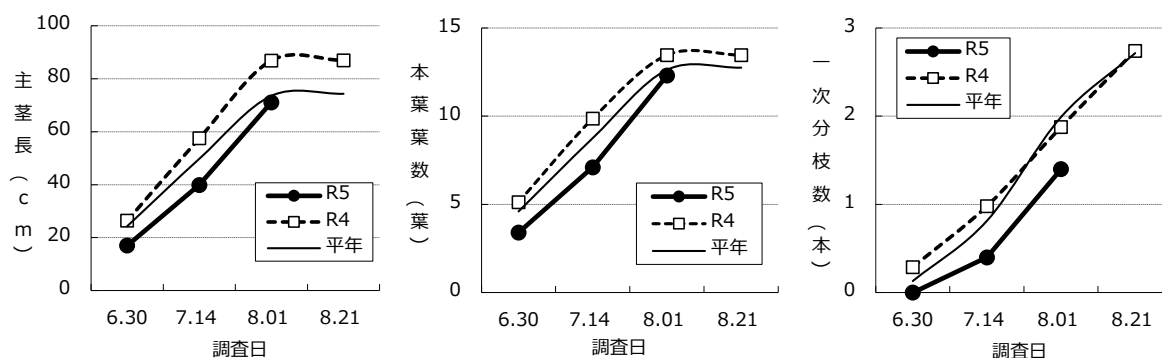


図 2 単作エンレイの生育の推移

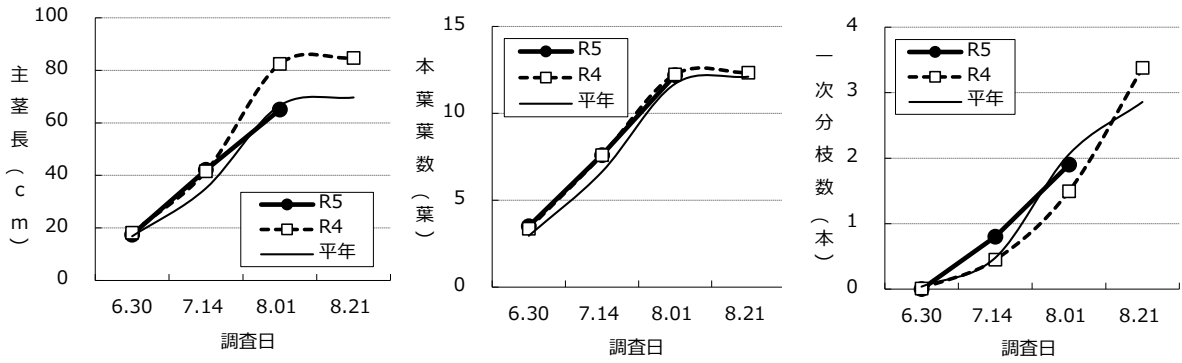


図3 麦あとエンレイの生育の推移

3 当面の技術対策

- ・今後も気温がかなり高く、晴天日が続くと予報されていることから、積極的に畦間かん水を行う。
- ・紫斑病及びカメムシ類の2回の基本防除を徹底する。

(1) 莢数の確保に向けた畦間かん水の実施

- ・落花・落莢の防止による莢数の確保と青立ちの防止を図るため、晴天日が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行う。また、畦間かん水実施後も土壌の乾きを確認し、適宜追加の畦間かん水を実施する。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら、水口をしっかり止めて速やかに排水する。(水をためたままにしない。)
- ・畦間かん水を行う際は、下流域まで十分に水が行き渡るよう地域内で調整し、効率的かつ計画的な用水の利用が行われるよう配慮する。



写真 入排水を速やかに行うため溝を確実に連結する

(2) 入排水路の手直しと確実な連結

畦間かん水時の入排水や降雨後の排水をスムーズにするため、溝の手直しや連結、排水口の掘下げを確実にを行う。

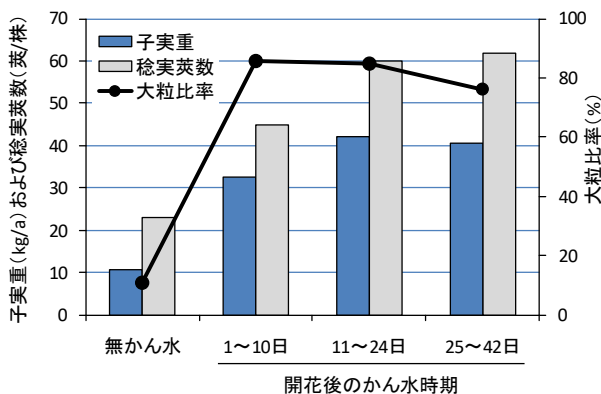


図4 かん水時期と収量の関係 (H14 農試)

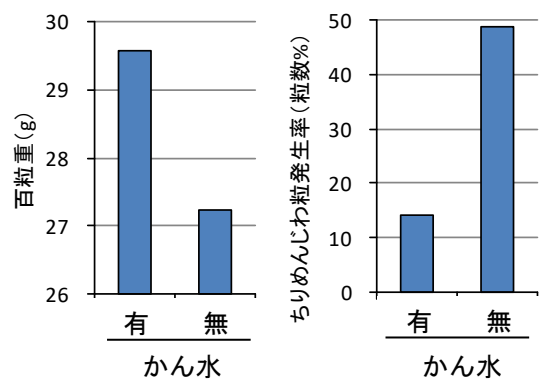


図5 かん水の有無が百粒重やしわ粒の発生に及ぼす影響 (H24 富山農振セ)
注) かん水有区: かん水2回実施

(3) 適期の病害虫防除 (表2)

【基本防除】

- ・ 紫斑病とカメムシ類に対して、2回の基本防除（8月2～3半旬頃と4～5半旬頃）を徹底する。
- ・ 薬剤は、同一系統の薬剤の連用は避け、莢や茎葉に薬剤が十分付着するよう散布する。

【随時防除】

ア 葉焼病

- ・ 強風雨で蔓延し、多発すると収量、品質が低下する。
- ・ 発生初期に「Zボルドー」等で防除する。

イ ウコンノメイガ

- ・ 生育の旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発する傾向がある。
- ・ 幼虫による葉巻を確認し、1株当たり平均6個以上の葉巻があれば、速やかに「ダントツH粉剤DL」や「プレバソンプロアブル5」等で防除する。

ウ ハダニ類、ハスモンヨトウ

- ・ 高温乾燥が続く、ハダニ類が増殖しやすい気象条件のため、発生を確認したら「ニッソラン水和剤」等で防除を行う。
- ・ ハスモンヨトウによる白変葉がみられたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外で処分するとともに、発生状況に応じて薬剤を散布する。なお、薬剤は葉裏にも十分かかるように散布する。

エ カメムシ類

- ・ カメムシ類は子実を吸汁するため、被害粒の増加と品質低下や青立ちの発生要因になる。
- ・ 農研定点調査(7/25)の払落し虫数(1条1.8m)は、平年より多くなっているため、基本防除後に発生が多くみられる場合や山際等の常発地域では、9月上旬に追加防除を実施する。

表2 病害虫防除時期 (例: 6月上旬播種)

	7月	8月		9月	ホリハリカメムシ
	下旬	月上旬	月中旬	下旬	
生育ステージ	開花期	莢伸長期		子実肥大期	イモシカメムシ
基本防除		【1回目】 紫斑病 カメムシ類	【2回目】 紫斑病 カメムシ類		
随時防除	葉焼病	ウコンノメイガ	ハダニ類	ハスモンヨトウ	

(4) 早めの雑草対策

- ・ 株間に残った大型雑草や帰化アサガオ類、イヌホオズキ類等の難防除雑草の発生に注意し、雑草が結実する前に防除（手取り、除草剤塗布、地際からの刈取り等）を徹底する。特に、難防除雑草は水田周辺等も含め防除するとともに、防除後も再度発生するので、継続的に防除する。